

Regular Meeting Report

2月例会報告書

2
2018
February



夢ある未来を創るTokyo Vision 2020

ボーダーを超えた社会から かつてないレガシーを

2月の例会は多くの参加者が見守る中、オープニング動画で幕を開けました。首都大学東京特任教授 舩本直文氏の基調講演、東京JC2020連携室 室長 須賀寛文 君の青年会議所運動紹介に続いて、東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会、朝香博氏に各種参画プログラムについての紹介をいただきました。小池百合子都知事、歌舞伎俳優、市川海老蔵氏、当会議所理事長石川和孝君の3氏によるパネルディスカッションの後、3氏による手拭い撒きで盛況のうちに幕を閉じました。

2018年2月19日、晴海アイランドトリトンスクエア「第一生命ホール」において、2月例会を開催いたしました。小池百合子都知事、市川海老蔵氏をはじめとするゲストをお招きし、会場を埋め尽くす勢いの700人強の参加者を集め、東京の夢ある未来について語り合いました。



2020年をめざし一丸となって 新たな東京の価値を築き上げる

日本にとっては冬季五輪史上最多のメダルラッシュとなった平昌オリンピック期間中の2月19日。2020東京オリンピックパラリンピック競技大会を見据えたテーマで、東京青年会議所2月例会が開催されました。スポーツと平和の世紀の祭典への期待を体現するかのような700人強の参加者を前に、意義深い講演やパネルディスカッションが繰り広げられました。

首都大学東京の舩本直文特任教授は、平昌オリンピックを中心に、これまでのオリンピックに関わって行われてきたオリンピズムに基づく各国の友好のための活動などを紹介。日本では報道されることの少ない側面を語っていただきました。平昌における日中韓の東アジア平和に関する動きなど、2020年東京においても参考になるお話をいただきました。東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会、朝香博氏による参画プログラム説明は、東京JCとして個人として参加できる活動を知る機会となりました。



創り上げ未来に残すために 東京都の取り組みに協力を

第2部のパネルディスカッションでは、冒頭に小池百合子都知事より、2020年東京に向けての取り組みは、大会後を見据えたものであるべきことが語られました。都市としての成熟を示すレガシーを残すこと。そのために都が進めている様々な活動を紹介。学ぶべき点が多い大会として2012年ロンドン大会を例に挙げ、ボランティア活動、パラリンピックへの注力、文化の発信が欠かせないことを力強く伝えられました。

市川海老蔵氏は、伝統を継承しながら新たな文化、新たな価値を創造することの重要性和、そのための取り組みについて語っていただきました。



ひとりひとりがコミットし よりよい東京の未来を築く

小池都知事からは、誰もが2020東京大会に参加できる具体的な方法も語られました。パラリンピックを盛り上げるための協力隊「チームビヨンド」へ、東京青年会議所メンバーにも、積極的に参加してほしいこと。金銀銅メダルの素材に使用済み携帯電話をリサイクルした素材を使用する計画を進めていることから、使用済み携帯電話の提供も呼びかけました。

会の締めくくりには、歌舞伎などの舞台で縁起行事とされる手拭い投げが、小池都知事、市川海老蔵氏、石川理事長によって行なわれ、会場を沸かせた後、登壇者の皆様の記念撮影で幕を閉じました。

